



「あなたの神、主の御口から出ることばで…」 (要旨)

申命記 8・1-10 説教者 原田憲夫

今週の聖句 マタイ 4・4

昨日-荒野の40年間と明日-約束の地の分岐点に立つ「今日」、モーセは神が与えられた民の荒野での「試み」を忘れず、「霊の糧」を得て歩めと力強く語りかけます。今日、心の耳を澄ませてしっかり聴きましょう。

エジプト脱出に成功したイスラエルの民でしたが、荒野に入ってから食物がなく不平不満が吹き出しました(出 16・2-3)。神はその民の声を聞かれましたが、そこに「試み」が用意されたのです(同 4)。

【1】神の試み-荒野にて-

聖書の神は私たち人間を「人格」をもつ者として創造されました。神は私たちとの人格的な交わりを大切にされ、この交わりを通して永遠の祝福を豊かに注がれます。

従って、「神の試み」には意図・目的があります。すなわち、5節に「訓練」とあるように「教育的な意図・目的」です。

▶「訓練」を経て信仰面で成長するためです。→ヘブル 12・10-11 参照。

(10)・・・霊の父は私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練されるのです。(11)すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。

▶さらには、神に背を向けさせる誘惑の力(サタン)に打ち勝つ霊的力を養うためです。→Iペテロ 5・8-9 参照。

【2】神の不思議な食物-マナ-

「荒野」というのは「文明」に彩られていない危険な、荒れた世界です。

この荒野で、神はご自身が用意された不思議な食物-マナ-を通して40年間訓練されたのです(出 16・35)。それは、民が荒野の中で唯一の神、真実の神だけを頼ることを学ぶためでした。

モーセはこの「訓練」を生かし、「神の口から出る一つ一つのことば」を「霊の糧」とし、明日へと踏み出せと力強く語ります。「神の口から出る一つ一つのことば」には「いのち」があります。「生きている神のことば」です。

ですから、むなしく地に落ちることは決してないのです(イザヤ 55・10-11)。

【勧め】

現代世界は物質的には豊かでも、心・魂は荒み、ますます飢え渴いた世界が広がっているように思われます。その意味では私たちもまた「荒野」を旅しているのです。

その旅の間、今年のコロナ禍もそうですが、明日の不安、未知の脅威の波が次から次へと押し寄せてきます。

今日、私たちに必要なものは<生ける神のことば>です。

私たちは本来、<生ける神のことば>なしには生きられない<霊的な存在>です。しかし、そのことに気づいていないか忘れていきます。「肉体的空腹」には敏感ですが、「霊的な空腹」には鈍感です。

そんな私たちにキリストは語ります!

「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」(ヨハネ 6・35)。

そうです。イエス・キリストこそ、「霊の食物-マナ」なのです!

<生ける神のことば>そのものです。

あなたも私も、このキリストを心から信じて従うとき、生きるのです!

邪悪な暗闇の中で、「世の光として輝くこと」(ピリピ 2・16)ができるのです!

キリストは今日あなたを招いています。「さあ、わたしを食べて生きよ!」

* 祈り
* 賛美

